

優良事例2

奈良県五條市阿太地区

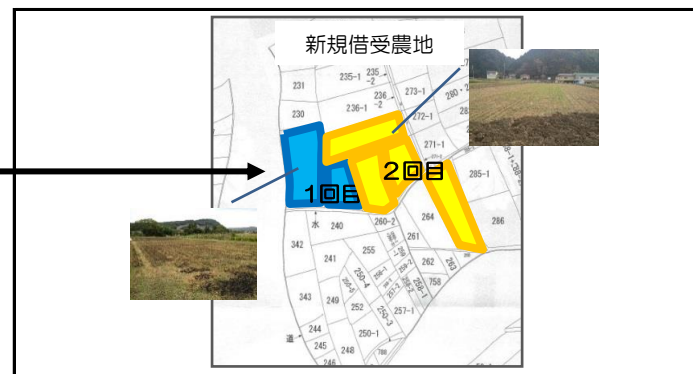
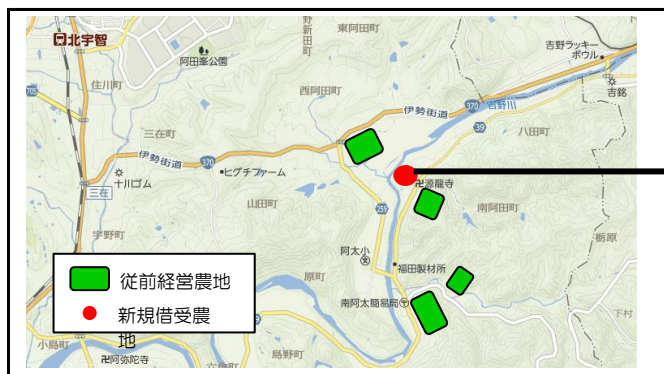
1. 機構事業の進め方(該当する箇所に○を記載)

	①各市町村・各地域の人・農地の状況の把握からのアプローチ
○	②公募に応募した受け手のニーズの把握からのアプローチ
	③法人・認定農業者などの担い手のニーズの把握からのアプローチ
	④基盤整備(簡易整備を含む)からのアプローチ

2. 地区の概要

- ・中山間の水田地帯
- ・地域内では水稻・露地野菜などを主に栽培
- ・担い手の高齢化が進み、農地維持が難しくなっている。

3. 機構の活用のイメージ(農地利用図)



活用前(現在)

- ①機構から転貸を受ける担い手の集積面積及び集積率: -ha、-%
 - ②機構から転貸を受ける担い手の平均経営面積: 7ha/経営体
 - ③機構から転貸を受ける担い手が利用する団地数: 12箇所
 - ④機構から転貸を受ける担い手が利用する団地の平均面積: 0.5ha/団地
- ※ 団地: 連続して作付けができるほ場

活用後(平成26年)

- ①機構から転貸を受けた担い手の集積面積・集積率: 0.63ha、-%
- ②機構から転貸を受けた担い手の平均経営面積: 7.6ha/経営体
- ③機構から転貸を受けた担い手が利用する団地数: 13箇所
- ④機構から転貸を受けた担い手が利用する団地の平均面積: 0.52ha/団地
- ⑤機構から転貸を受けた新規就農者数: -人
- ⑥機構から転貸を受けた参入企業数: -法人

4. 効率的・効果的に進んでいる要因

阿太地区の人・農地プラン中心経営体(かつ認定農業者)に優先的利用配分を実施。また、農地の出し手に耕作者集積協力金を活用した。

機構が地域に第1回目のマッチング事例の情報提供を行ったことにより、農地維持管理が困難な隣地所有者2名から農地貸付希望があり、同じ受け手に追加集積・集約化できるとともに、出し手にも耕作者集積協力金を活用できた。

5. 機構自身の創意工夫

機構が県・市町村と連携して、取り組み地域内において活用事例の情報提供を行うことで、農地所有者から積極的な貸付を受け、面的な拡がりにつなぐことができた。